

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 104

学校名・団体名	小豆島町立苗羽小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	確かな学力を活用してよりよく生きようとする児童の育成

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1 実施計画に至るまでの経緯

学習指導要領(平成32年から実施予定)改定の視点として、新しい時代に必要となる資質・能力の育成が示され、「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」、「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」の三つを関連付けながら育成していくことが求められている。また、香川県の「平成30年度学校教育実践の手引き」では、確かな学力の育成と個に応じた教育の推進のために、児童に基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けさせ、これらを活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力その他の能力を育むとともに、主体的に学習する態度を養うことが示されている。以上のことから、学校は、各教科における基礎的・基本的な内容の理解、技能の習得を確実なものにするとともに、観察・実験、レポートの作成、論述などの言語活動を基盤として思考力、判断力、表現力を用いて知識・技能を活用する能力を育成しなければならない。さらには、学習課題を主体的に解決しようとする意識の向上を図ることや、地域の人的・物的環境の教育活動への積極的な活用を行う必要がある。また、外国語の教科化に向けて、学習環境を整えるとともに、日常の中でも外国語に触れ、外国語が身近に感じられる環境づくりを行っていく必要があると考えている。

これまでの本校の取組において、付けたい力を明確にした学習課題を設定し、汎用的にまとめる支援は充実してきたが、その力を実感したり、活用したりすることには課題が残る。さらに、グループ交流や全体交流での教師の出番の精選や児童のやりとりの質の向上など、交流場面において学びを深めていくことも課題となっている。本年度は昨年度までの課題を改善しつつ、外国語に関する指導、ICTの有効活用に関する授業研究も充実させたいと考えている。

2 研究のねらい

教師が付けたい力を明確にもち、児童と共にその付けたい力を意識して学習計画を立てたり、学習課題と学習問題を明確にした学習を行ったりすることで、単元または単位時間での学びを深め、汎用的にまとめられるようになると考える。学び得た汎用的な学力を他に生かす経験をしたり、生かしてよかったと実感したりすることを通して、確かな学力につなげていく。

また、本校では児童司会団を中心とした学習を数年前より実施している。児童が主体となって学び方を身に付けることで、達成感や自己肯定感を味わえる機会が増えると考えられる。また、課題を達成するための問題を自分で分析したり、友達と協議したりすることで、課題解決につながり、分かる喜びを実感できるようにする。

さらに、交流において児童同士で学び合う際に、「誰の」考えで自分が分かるようになったのか、「どんな」考えが良かったのかなど、「友達」をキーワードにふり返らせたり、学習の中での自分の気持ちを「感情の言葉」を使って書いたりすることで、自分の気持ちと共に友達と交流したことの過程に着目する態度を育て、内容の定着を図るようとする。

3 実践

① 授業研究、模擬授業、授業参観、授業公開

授業研究の前には模擬授業を実施し、具体的な発問や教材・教具の活用の仕方などについて授業者が意識した上で授業に臨めるようにした。また、授業研究以外のときにも教員同士の授業参観を実施し、お互いのよいところや改善点などを伝え合えるようにした。さらに、保護者にも周知、公開することで、児童の様子を見てもらうことができるようにした。



◎模擬授業の様子

② 外国語科でのアクティブラーニング

外国語科においても主体的・対話的で深い学びが実践されるよう、英語について学びたいことや、英語で表現したいことを明確にした上で、相手に伝えるために必要な表現を学び、それを耳にしたり声に出したりする授業を行った。教科書で紹介される表現だけでなく、思いを伝えるために必要な言葉であれば、自分でタブレットの翻訳機能を活用し、単語とその発音を調べられるようにして、主体的に課題解決できるようにした。



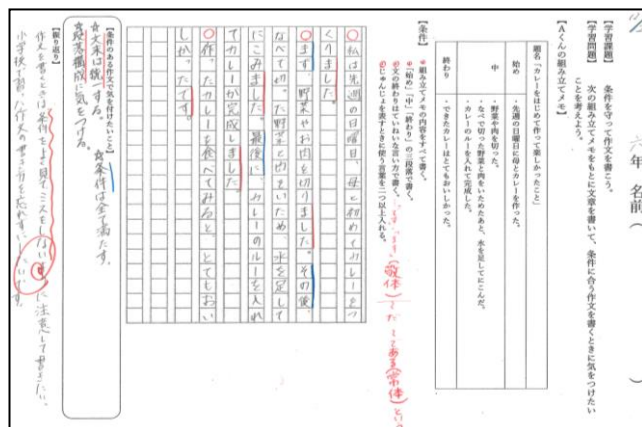
◎翻訳機能を活用して自力解決

③ 取り立て学習（記述力）の実施

問題分析力や記述力など、どの教科においても汎用的に必要な学力を特に取り立てて学習する取り立て学習を合計8回実施した。テストの受け方や作文指導においても積極的に取り立て学習での学びを振り返るようにして、実践につながるようにした。

<取り立て学習のテーマ例>

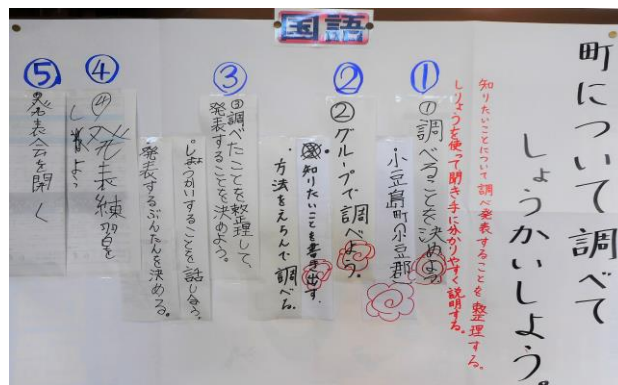
- ・条件作文の書き方（右図参照）
- ・原稿用紙の使い方
- ・スピーチで大切なこと
- ・問題文のマーキングの仕方



◎取り立て学習のワークシート

④ 付けたい力を明確にした導入学習と単元計画

単元のはじめに、児童の学習に対する意欲・関心を高めるために、どのような導入が効果的か教材研究をした上で授業に臨むようにした。実際の生活で必要な場面や、学年が上がったときに実施される学習内容などを知らせる導入学習を行うことで、必要感を持って学習に取り組めるようにした。さらにそこから学習のゴールに向かってどのような学びが必要であるかを児童が考え、その意見を単元計画として教室に掲示していつでも確認できるようにした。



◎単元計画（赤字が単元で身に付けたい力）

4 成果と課題

- 研究授業前の模擬授業を行うことで、全教員が授業の見通しをもつことができた。特に若年の教員においては、先輩教員から具体的に指導を受けられる貴重な時間となった。
- 児童が自分で調べたい、話したいという思いをもち様々な英単語や構文を学び、それを聞き取ったり相手に伝えたりする能力を向上させることができた。
- 取り立て学習が、効果的なマーキングに生かされ、正しい原稿用紙の使い方を意識して文章が書ける児童が増えた。
- 単元計画を掲示し、本時のめあてを児童が立てて学習していることでどのような力が身に付こうとしているのかを振り返り、見通しを持って学習することができるようになった。
- 外国語科においては、教員の英語力に個人差があるため、ネイティブの発音に触れる機会を増やすことや、クラスルームイングリッシュの充実についてさらに研修を深めていく必要がある。
- 取り立て学習で一時的には原稿用紙の使い方上達するが、時間とともに学んだことを忘れてしまう児童もいるので、場面を生かして書く場の設定や、同じような内容を繰り返し指導する必要がある。